

クイックスタートガイド。 自動カラー診断（ACD）。



目次

Auto Color Diagnosisの概要

ACD (Auto Color Diagnosis)の機能態様は？	5
ソフトウェアコンポーネントの連携 (どのロケーションで何を行うのか？)	6

Auto Color Diagnosisの有効化、設定、使用

ACDのための前提	7
プロセス概要	7
Color Center VersafireでACDを開始します	8
操作ターミナルでのACDの設定 (管理者)	11
Prinect Cockpitでの印刷ジョブにおけるACD	12
操作ターミナル (Operator)でのACD結果の表示	14
例	15
詳細表示/ログ	17
ACDを再実行する	17

ソフトウェアコンポーネントに関する詳細情報

Versafire LP操作ターミナルでの設定	19
必要条件	19
ACDを完全にまたは一部を停止	20
ACD単位設定オプション (「ACD単位設定」) の概要	21
自動カラー診断の設定	21
印刷中断	21
検出された偏差の許容値	21
画質モニターの設定	22
表/裏タブでのギャップ識別設定	22
欠陥識別時の印刷プロセス	22
色ムラ識別	23
色差	23
印刷中断	23
色差のしきい値	23
ジョブ特有の設定	23
注記及びヒント	24

目次

自動色診断	24
画質モニター	25
ACDPrinect Cockpitでジョブ別に調整する	26
Color Center Versafireでの管理	28
Prinect Color Center Versafireの機能	28
被印刷物のクオリファイの構成要素	28
データ管理	28
Cockpitからの呼び出し	28
Color Center Versafire内の用紙リスト	29
用紙管理でのACDの表示	29
トレー概要におけるACDステータス	30

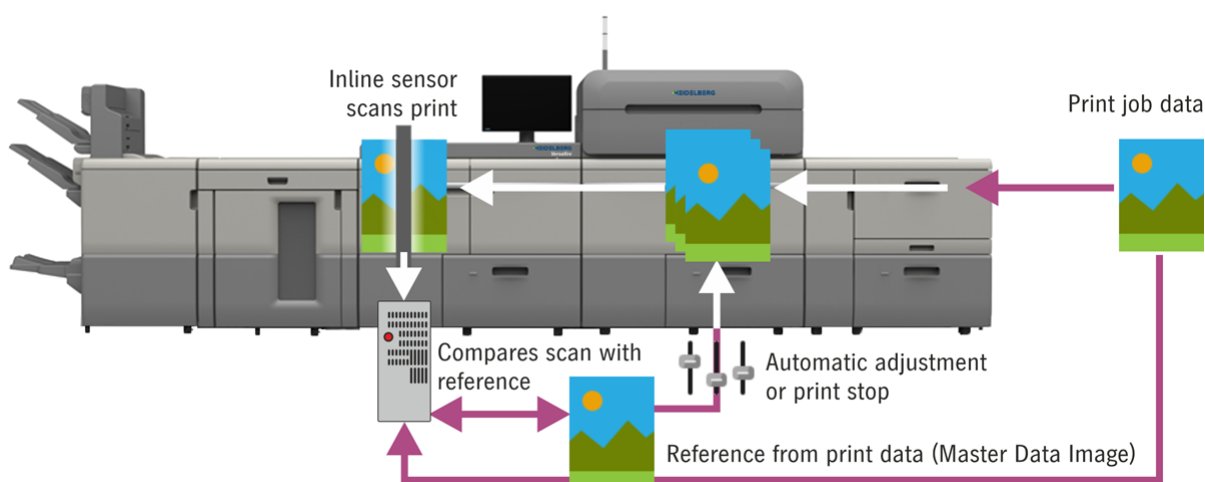
インデックス

Auto Color Diagnosisの概要

ACD (Auto Color Diagnosis)の機能態様は？

Auto Color Diagnosis (「ACD」) 機能で色偏差やスクラッチなどの損傷を印刷プロセスの最初から最後まで監視することができ、部数が多い場合特に役立つ安定した色再現が確実にあります。

この際元のデジタルデータからいわゆる「マスタイメージ」が基準として生成されます。印刷済み用紙はインラインセンサーでスキャンされ、その結果が連続的に基準と照合され、色再現が印刷で調整されます。



注記：ACDはVersafire LPでしか利用できないオプションの拡張機能です。ACDがない印刷機は「ACD」をColor Center Versafireで開始することができず、操作ターミナルに「ACD」メニューはありません。

ACDは2つのコンポーネントから構成されます：

- 「Color Homing」という基本コンポーネントは最後に印刷される色を印刷プロセスの最初に印刷された色と比較し、色を自動調節します。これによって印刷中に発生しうる色偏差が自動的に修正されます。
- 「Image Quality Control」では印刷結果にスクラッチやシミなどのエラーがないかを検査します。
IQCは、印刷が中断されるか挿入用紙を対応する位置で印刷するかを設定可能です。

ACD用の設定は、この用紙についてはVersafireの操作ターミナルで行い、Prinect Cockpitでのジョブでは「デジタル印刷」ページの「プレスおよびポストプレス設定」タブで個別に調整することができます。

ただし、その用紙についてACDが有効になっており、ACDのための基本データがあることが前提条件です。

Auto Color Diagnosisの概要

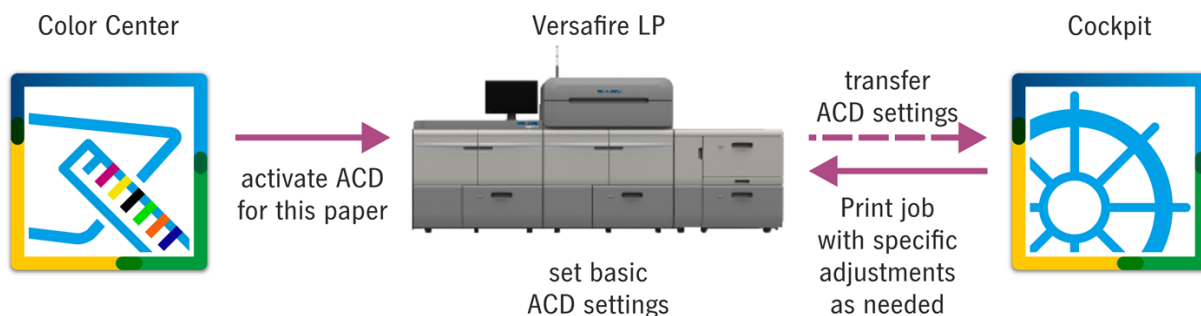
このためにはColor Centerでその用紙のために最初に被印刷物のクオリファイを実行し、その後で「ACD」を開始してください。その際異なるテストページが印刷され、インラインセンサーで自動分析後、この用紙用にACDが有効になります。

その後、ACDの機能をVersafireの操作ターミナルで所望の構成に設定することができ、Princt Cockpitでオプションも利用できます。



注記：「Auto Color Diagnosis」という名称は、オプション全体に対する上位概念でもあり、また、操作ターミナルでは「Image Quality Monitor」と区別するためいわゆる「Color Homing」の機能も意味します。

ソフトウェアコンポーネントの連携 (どのロケーションで何を行うのか ?)



- Color Center Versafire: Color Center Versafireでは、被印刷物のクオリファイ後に「ACD」機能を開始することによってACDを使用するための基本的な前提条件を整えます。この際、テストページの印刷及び自動測定により用紙サイズ別のACD基本データが求められます。
- Versafire LPの操作ターミナル：このターミナルの「ACD」メニューで、画質モニターの識別レベルなど、全ての用紙用ACDの基本設定を行います。ここで行う設定が印刷ジョブ用の標準設定となります。
また、Versafire LPでACDの結果を直接確認し、各印刷ジョブに対応するログを呼び出すこともできます。
- Prinect Cockpit：ACDが有効で用紙に印刷ジョブを出力する場合は常にACDがオンになっています。ただし、Prinect Cockpitでは基本設定を印刷ジョブ別に調整することもできます。

Auto Color Diagnosisの有効化、設定、使用

ACDのための前提

対応用紙：

用紙サイズ	210～330.2 mm (8.3～13.0インチ) ポートレート × 279～700 mm (11～27.6インチ) ランドスケープ。または、 279～330.2 mm (11～13.0インチ) ポートレート × 210～700 mm (8.3～27.6インチ) ランドスケープ (ユーザー定義およびバナー用紙を含む)
用紙の重さ	「0」 (40.0 g/m ²) 以上
用紙タイプ	普通紙、再生紙、高光沢紙、光沢紙、マット紙、合成紙
用紙の色	白 (表裏同色)

ACDは透明や構造化またはカラー/印刷処理がしてある被印刷物には適しません。

ACDに以下のオプションは使用できません：刻印、パンチ、縁なし印刷

プロセス概要



基本データを求め、ACDを有効にするため被印刷物用のキャリブレーションを作成し、ACDをColor Center Versafireで開始しま



自動色診断または画質モニター用の基本設定をVersafireの操作ターミナルで決定します。



Prinect Cockpitでの印刷ジョブは必要に応じてジョブ固有の変更を行います。



Versafireでの印刷プロセスでは、必要に応じて検出された色偏差や欠陥に対応して問題のあるページを取り除きます。

Color Center VersafireでACDを開始します



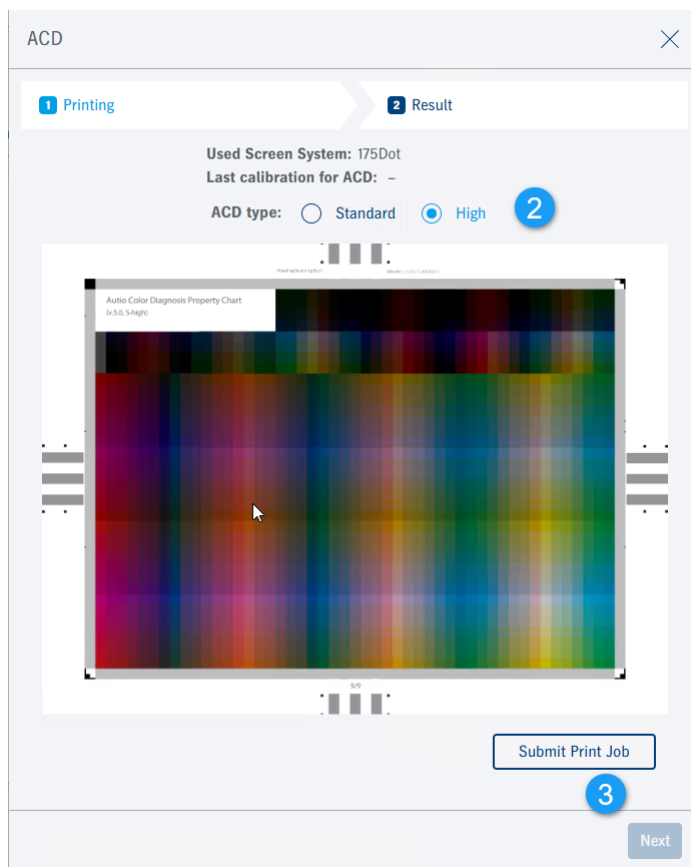
前提条件：印刷機に「Auto Color Diagnosis」機能がインストールされ有効になっていることが前提です。被印刷物は要求事項を満たし、キャリブレーション済みであることが必要です。ACDキャリブレーションの前にインラインセンサーが清潔なことを確認してください（センサー清掃については機械でビデオをご覧ください）。

機能を利用できるためには、用紙についてのACDキャリブレーションを実行する必要があります：

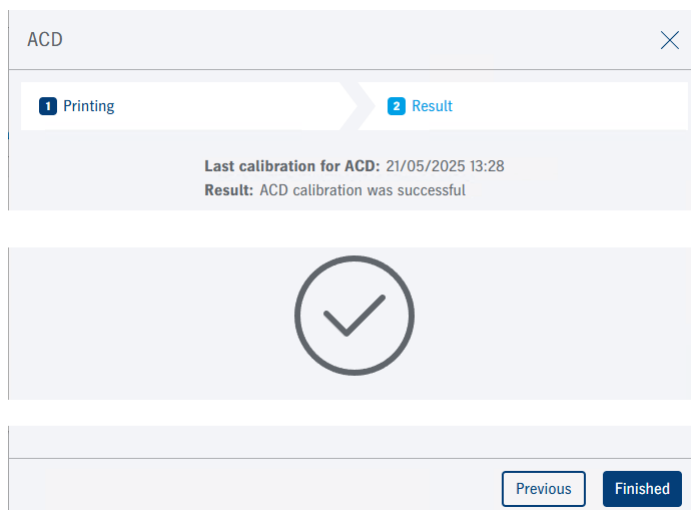
1. 「最後のACD」の横にある矢印をクリックします。

2. 「Standard」と「High」から選択してください。標準ACDではテストページが5枚印刷され、印刷機で評価されますが、通常の場合はこれで十分です。「High」の場合は、テストページが9枚印刷され、これは要求が厳しい印刷ジョブの場合に推奨されます。
3. 「印刷ジョブ転送」からテストページの印刷を開始し、次に「次へ」をクリックします。テストページが印刷され、VersafireでACDによって評価されます。

Auto Color Diagnosisの有効化、設定、使用

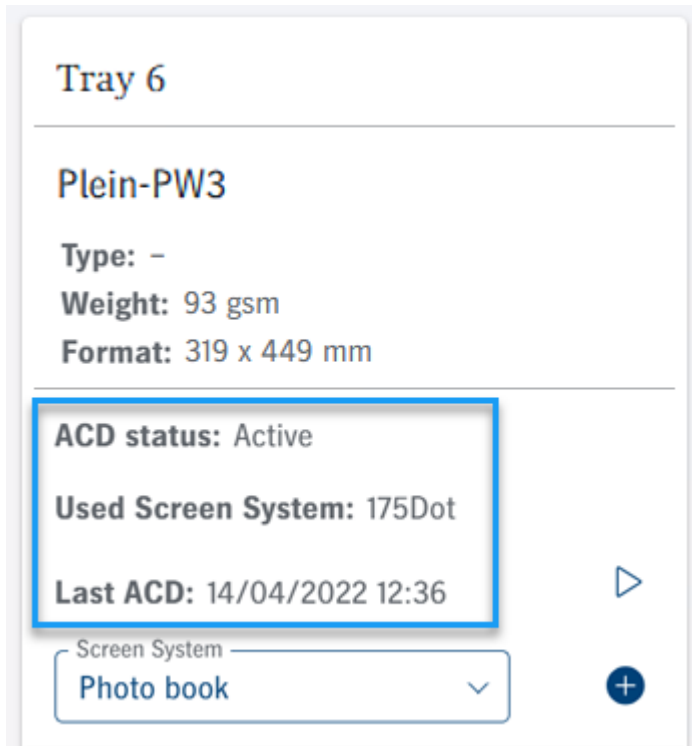


4. 最後に結果が表示されます。"完了"をクリックします。



Auto Color Diagnosisの有効化、設定、使用

ここで、トレイ概要にACDの作成日が表示され、ステータスが「アクティブ」に切り替わります：

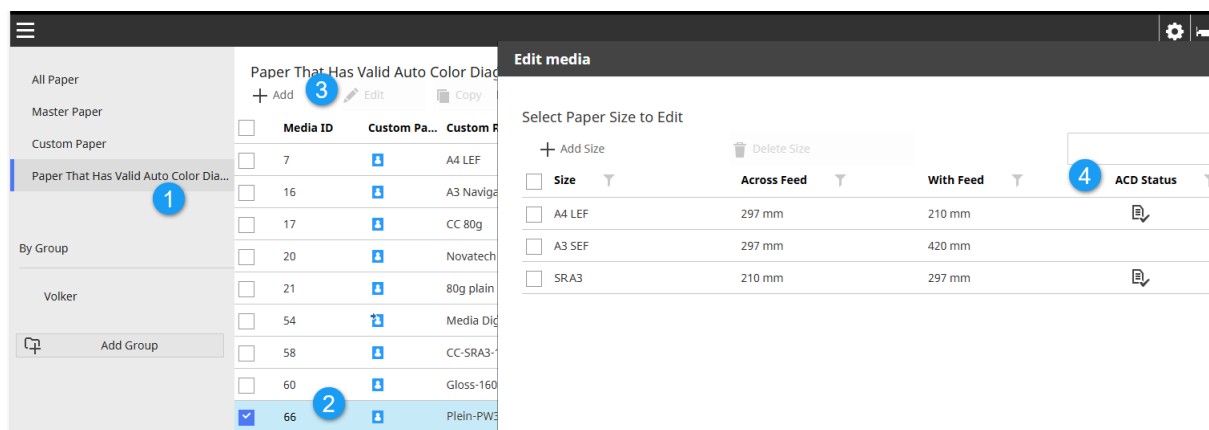


["Color Center Versafireでの管理", ページ 28](#)も参照してください

操作ターミナルでのACDの設定（管理者）

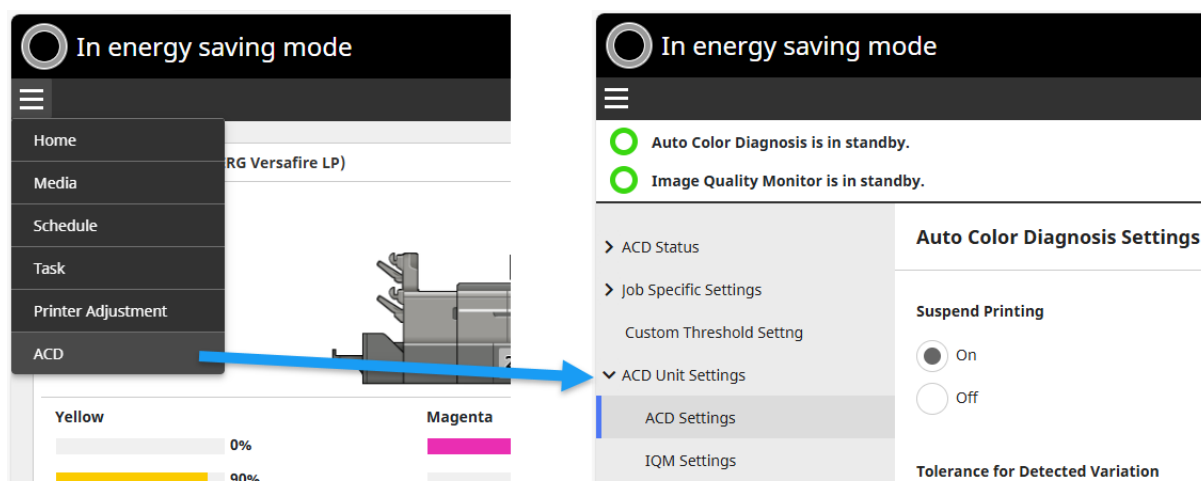
被印刷物用に初めてACDがColor Center Versafireで実行された後、操作ターミナルでは「媒体」メニューに出る用紙リストに有効なACDプロパティ付きで表示されます（1）。

その用紙を選択（2）して「編集」をタップ（3）すると、Color Center Versafireでの詳細表示と同様に、「ACD-Status」列（4）にACDが実行された対象であるこの用紙のフォーマットが表示されます。



ACDがどの設定で作業するかは、操作ターミナルで全用紙について一元的に決定されます。このためには操作ターミナルに管理者権限でログイン済みであることが前提です。

- ・「印刷設定 > ACD利用設定」で、自動色診断または画質モニターを無効にできます。
- ・「ACD」メニューの「ACD単位設定」項目では、例えば、印刷インキごとの偏差や印刷カラー別の許容誤差が検出されたときの動作などACDの基本設定を調整でき、さらに、ユーザー定義の識別レベルを設定することもできます。



操作ターミナルでのACD用の設定についての詳細情報は、["Versafire LP操作ターミナルでの設定", ページ 19](#)をご参照ください。

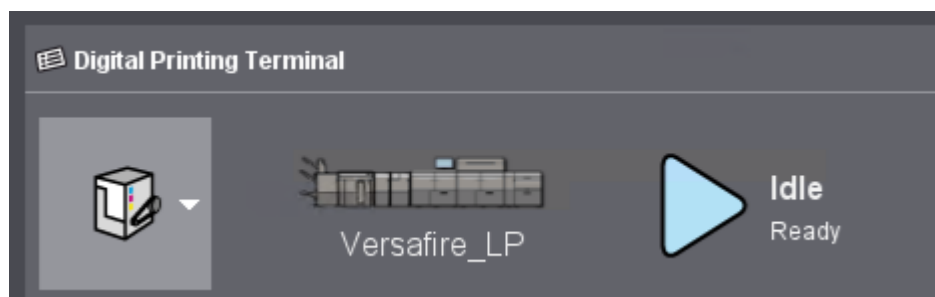
Prinect Cockpitでの印刷ジョブにおけるACD

ACDが用紙用に有効になっていれば、この用紙にVersafire LPで印刷される場合は、常に自動色診断が使用されます。ただし、各印刷ジョブの設定の一部は「デジタル印刷」ページにある「プレスおよびポストプレス設定」タブで調整することができます。

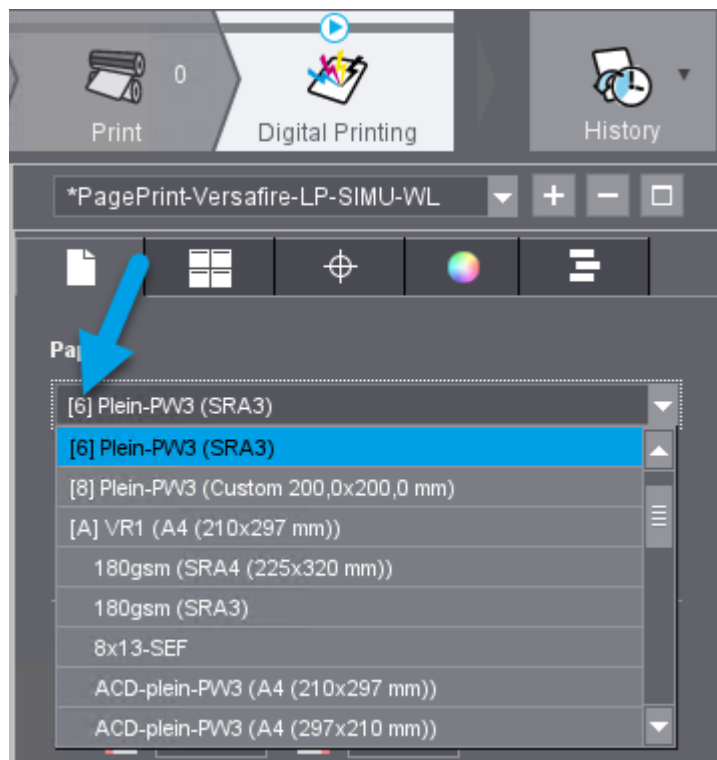


注記：設定オプションが表示されるのは、印刷機と接続されており、ACDが有効にされている用紙が挿入され選択されている場合に限られます。

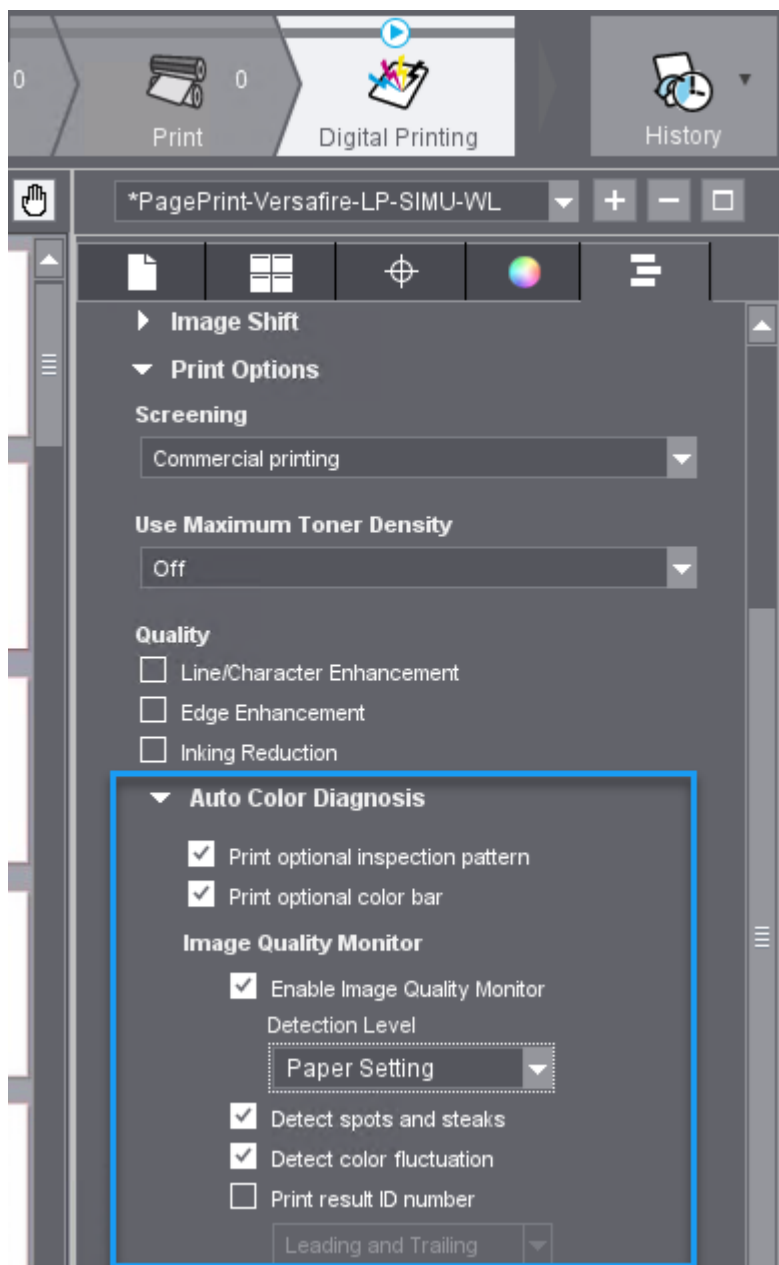
印刷機は利用可能：



ACDで用紙を選択します（角括弧内の数字は、用紙が現在入っているトレイを示します）：



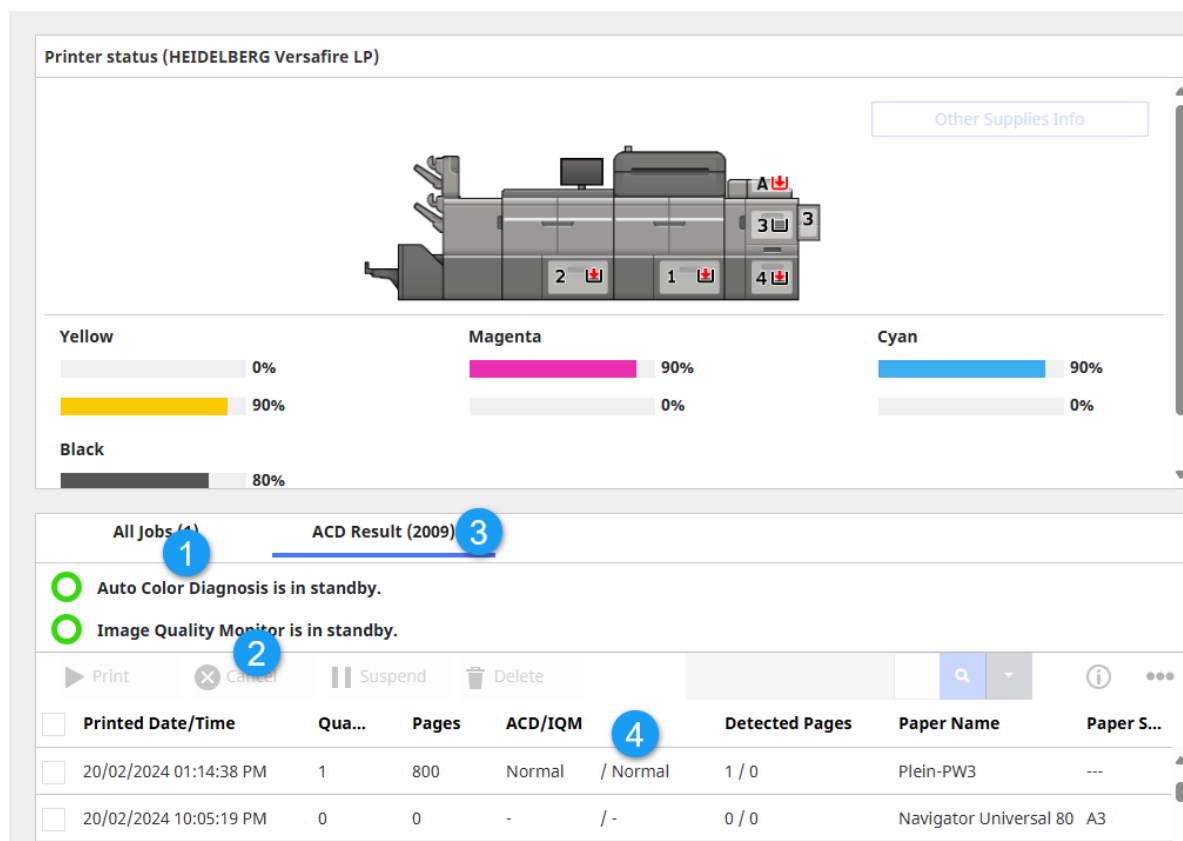
「印刷オプション」では、「Auto Color Diagnosis」の設定を開けます：



画質モニターのオプション使用のための前提条件は診断マークが出力されていることです。画質モニターがオンであれば、様々な識別オプションを個別にオン/オフにすることができます。印刷ジョブで調整可能な設定についての詳細情報は、["ACDPrinct Cockpitでジョブ別に調整する"](#)、[ページ 26](#)をご参照ください。

操作ターミナル (Operator)でのACD結果の表示

オペレータには、Auto Color Diagnosis (1) 及びImage Quality Monitor (2) の状態表示が見え、「ACD結果」(3)で個々の印刷ジョブの結果を有効なACDで用紙上で確認し(4)、考えられる問題に対処することができます。



ACDによって識別された問題があればどの処置が可能かは、管理者によるシステム設定に依存します：

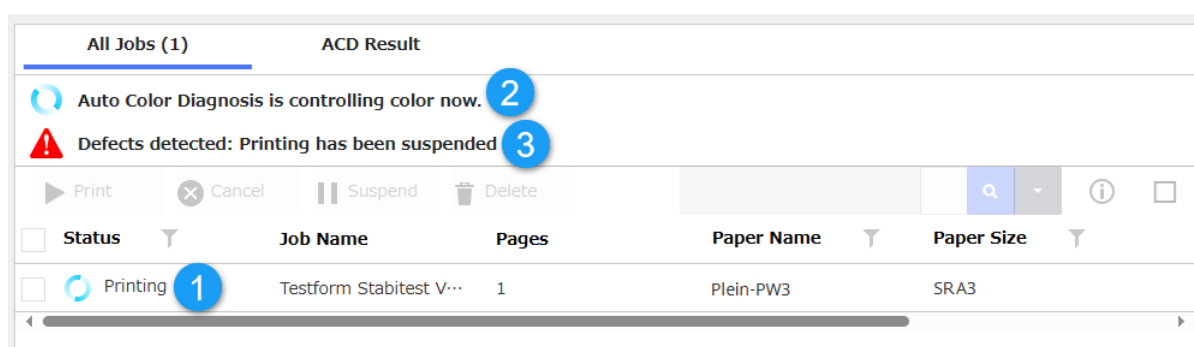
- ・「印刷中断」動作が色診断や画質モニター用に設定されている場合は、印刷ジョブが中断され、操作ターミナルに対応するメッセージが表示されます。
- ・「印刷中断」がオフになっている場合、印刷が継続し、特定された偏差が「ACD結果」にリストアップされます。
- ・「Image Quality Monitor」によりムラや線などの欠陥が識別された場合、以上の代替として他の動作が設定されている場合もあります：
 - ・「回復」では該当するページの印刷プロセスが反復されます。エラーが再発した場合、印刷ジョブが停止されます。エラーが再発しなければ、印刷が継続し、該当するページをご自分で印刷スタックから取り除くだけです。

- ・「挿入用紙を挟む」：印刷プロセスは継続しますが、欠陥のあるページは挿入用紙で標識化されるため、後で印刷スタックから楽に取り除くことができます。

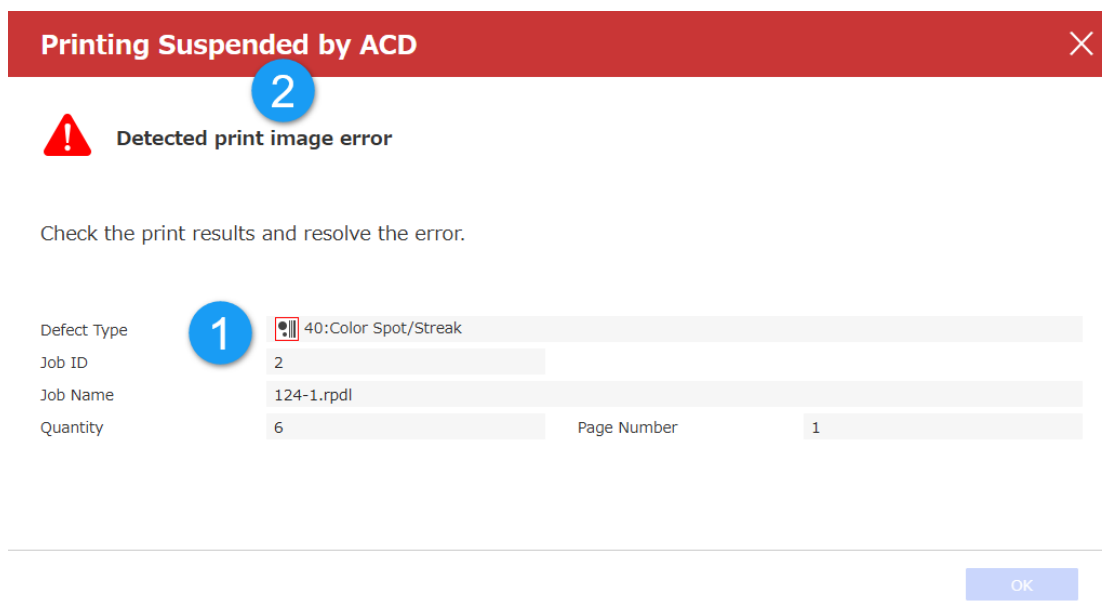
例

その用紙用には自動色診断及び画質モニターがオンになっています。印刷ジョブは変更なく、Prinect Cockpit内のACD設定に転送されます。用紙スタックにはカラーマーク付き個別用紙が含まれています。

ジョブがVersafireで印刷中に（１）、色診断は均一なカラー再現（２）を継続的に確認し、画質モニターはカラーマーク（３）を「見つけ」ます。



操作ターミナルにエラーメッセージが表示され、ここから発生したエラーの種類がわかります（１）。図の例では、画質モニター用には欠陥が識別された際の動作として、「印刷中断」に設定されており、すなわち、印刷ジョブは中断されました（２）。



欠陥のある印刷用紙を印刷スタックから取り除いてください。その際、Versafireが高速印刷によりまだ数枚先まで必ずしも欠陥があるとは限らない用紙を印刷するため、欠陥のある印刷用紙が最後の印刷用紙でないことにご注意ください。

Auto Color Diagnosisの有効化、設定、使用

次に、エラーメッセージを閉じ、印刷ジョブを継続してください（このためには場合によっては管理者権限が必要です）。

「ACD結果」ページ（1）ではすべての印刷ジョブについて「ACD/IQM」列（2）を見ると問題の有無の判別ができます。図に示す例では、両方の印刷ジョブで個別のページにある欠陥が画質モニターによって識別され、その一方では色診断が問題を識別していません。

1

Auto Color Diagnosis is in standby.

Image Quality Monitor is in standby.

Print Cancel Suspend Delete

Printed Date/Time	Quality	Pages	ACD/IQM	Detected Page	Paper Name	Paper ...
18/06/2025 02:12:51 PM	10	1	Normal	1 / 10	Plein-PW3	SRA3
18/06/2025 02:03:42 PM	10	1	Normal	1 / 10	CC 80g	A4

Displayed Items 100

8 / 21

詳細表示/ログ

▶ Print	✕ Cancel	Suspend	🗑 Delete		🔍	ⓘ	⋮
ACD/IQM	Detected Pages	Paper Name	Paper ...				
- / -	0 / 5	A4 LEF Fusing Nip 2_1	A4				
- / -	0 / 10	A4 LEF Fusing Nip 2_1	A4				
Normal / Normal	1 / 0	---	---				
- / -	0 / 0	Navigator Universal 80gsm A3	A3				

詳細のアイコン (1) をクリックすることにより、印刷ジョブごとの個別にACDの結果を表示させることができます :

IQM Result	Color Fluctuation	ACD Result	Job Detect Result
Auto Color Diagnosis Settings			
Detected Var. Tolerance: Cyan	3		
Detected Var. Tolerance: Mag	3		
Detected Var. Tolerance: Yiw	3		
Detected Var. Tolerance: Bk	3		
Auto Color Diagnosis Result (1)			
Time and Date Occurred	Quantity	Page Number	Description
05/04/2025 04:25:47 PM	1	4	Normal



印刷ジョブのログをPDFフォーマットで作成したい場合は、三点メニュー (2) をクリックして[Output ACD Report]コマンドを選択します。

ACDを再実行する

以下の場合にはACDの更新が必要です :

- ・ 印刷機のインラインセンサーの交換後
- ・ 用紙設定で印刷速度の変更後
- ・ 用紙カタログにあるタブ情報の変更後

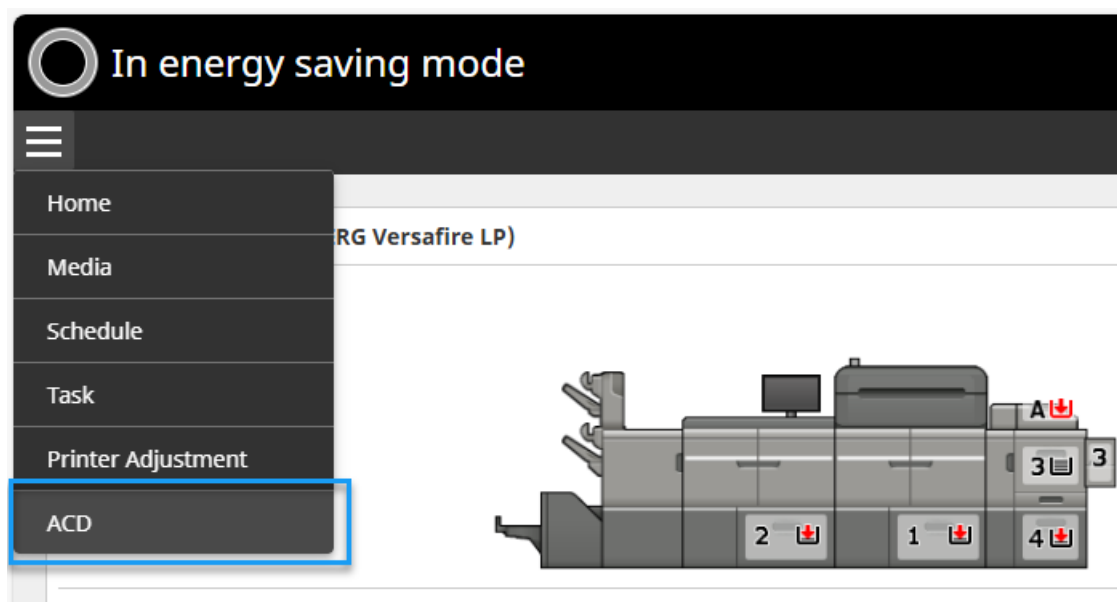
ソフトウェアコンポーネントに関する詳細情報

Versafire LP操作ターミナルでの設定

必要条件

- 追加ハードウェアはVersafire LPに設置及び構成済みです。
- ご自身が管理者権限で操作ターミナルにログオンしていることが前提です。

本機の操作ターミナルのユーザーインターフェースには追加の「ACD」メニューが表示されます。

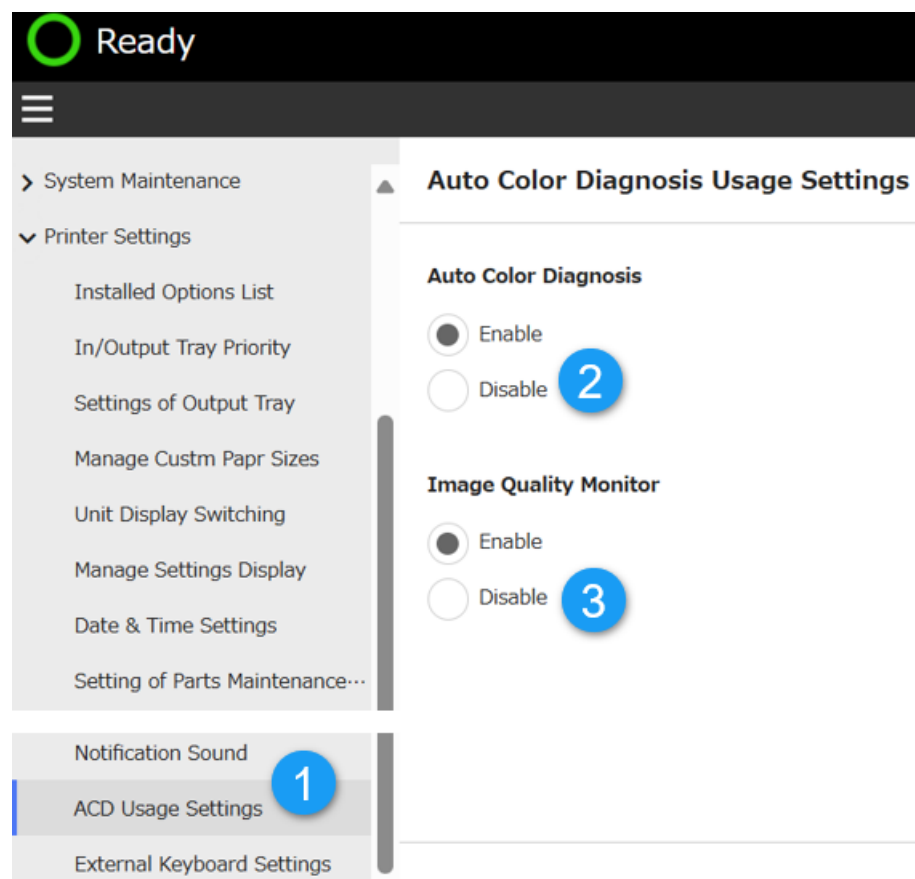


「Auto Color Diagnosis」と「Image Quality Monitor」ともにデフォルトで規程の設定で作動しています。

これによってACDは常に、印刷ジョブが有効なACD割り付けで用紙に出力されると直ちに自動的に作動します。

ACDを完全にまたは一部を停止

「印刷設定 > ACDの利用設定」(1) (歯車アイコンからアクセスできます) では、自動色診断(2)や画質モニター(3)を完全に停止することができます。停止は**すべての印刷ジョブ**に適用されます。



ACD単位設定オプション（「ACD単位設定」）の概要

「ACD > ACD単位設定」では、追加設定（＝ACDが有効な**すべての**用紙に適用されます）をACDに合わせて調整することができます：

- ・ 「Auto Color Diagnosis」
 - ・ 印刷カラー別の許容誤差
 - ・ 偏差が検出されたときの動作
- ・ 「Image Quality Monitor」
 - ・ 表面と裏面のタブ偏差をチェックする
 - ・ 偏差が検出されたときの動作
 - ・ 及び動作の詳細設定
- ・ 「色ムラ識別」：
 - ・ デルタEタイプの選択
 - ・ 偏差が検出されたときの動作
 - ・ 最大色偏差の設定

自動カラー診断の設定

印刷中断

オプションが有効な場合、偏差が検出されると印刷ジョブが中断され、オペレータは機械で次の対策を決める必要があります。このオプションが無効な場合は印刷が継続し、検出された偏差が「ACD結果」にリストアップされます。

検出された偏差の許容値

すべて4つの印刷インキについて許容色偏差の異なる値を設定できます（標準値：3）。

画質モニターの設定

画質モニター用に、用紙に割付可能なしきい値用に 7 種類の標準設定が事前に定義されています (7 が最高感度レベル)。必要に応じて、しきい値の固有の組合せをご自分で作成して使用することもできます (「カスタムしきい値設定 > 追加」)。

Custom Threshold: Add

Threshold Level Name

Colored/White Spots Size: Level

- +

Colored/White Spots Density: Level

- +

Streak Length (With Feed Direction): Level

- +

Streak Density (With Feed Direction): Level

- +

Streak Length (Across Feed Direction): Level

- +

Streak Density (Across Feed Direction): Level

- +

Detection at Edges: Level

- +

表/裏タブでのギャップ識別設定

両面印刷では表と裏の見当精度が点検され、偏差が制限値を超えるとエラーが出力されます。

欠陥識別時の印刷プロセス

ここでは、印刷ジョブにエラーが検出された場合のシステムの動作が定義されます (標準設定: 「印刷中断」)。

印刷中断: 印刷ジョブは中断され、操作ターミナルにエラーメッセージが表示されるため、識別されたエラーに基づいてその先の対応を決めることができます。エラーがあってもよいページ数は変更可能です (前提条件: 1)。

回復: このページの印刷プロセスは反復されます。エラーが反復最大回数 (初期設定: 3 回) を超えて発生した場合、印刷ジョブが中断されます。

挿入用紙を挟む: これで挿入用紙の印刷が可能になり、異常のある用紙は後から楽に特定できます。

色ムラ識別

色差

目標値と実測値間の色濃度の表示方法選択

ΔE_{ab} (「CIELAB」) は1976年ISO規格及びオフセット印刷の標準に基づく色濃度の計算定義です。新規計算式 ΔE_{2000} は大幅に複雑になっており、より精緻な値が得られ、デジタル印刷では定番となりました。

印刷中断

オプションが有効な場合、偏差が検出されると印刷ジョブが中断され、オペレータは機械で次の対策を決める必要があります。オプションが無効な場合は、印刷が継続し、特定された偏差が「ACD Result」にリストアップされます。

色差のしきい値

ここでは、スライダーや +/- ボタンを使うあるいは入力欄をタップして個々の色または一般値用の最大色偏差を設定します。

ジョブ特有の設定

「ジョブ別設定」では、ユーザー定義値を入力できます：

- 未識別領域の決定
- 色域の決定
- 様々なしきい値を定義し、それぞれのしきい値がPrinect Cockpitでジョブ別に識別レベルとしても選択可能になります。例えば、あつて欲しくないジョブ停止を防止するため、線やムラの識別サイズを小さくすることができます。

これについて詳しい説明は「Auto Color Diagnosis / Image Quality Monitor Guide」説明書をご覧ください。

注記及びヒント

ご注意ください：オペレータは、解析マーク用にACDの十分なスペースがあることを確認する必要があります。マークはプログラムが追加するため、DFEにマークのプレビューは出ません！

分析システムは画像内で測定するので追加のカラーバーを必要とします。画像コンテンツが少ない場合は、印刷用紙に追加のスペースを予定せざるをえなくとも、追加のカラーバーがサポート用に便利な場合があります。



自動色診断

自動色診断

- は基本カラー標準を生成し、
- 色偏差を計算して
- 修正値を適用します。

偏差の高さは、最適な範囲が自動的に選択され、多様なポイントで豊富な数のCMYK測定が実施されることにより、計算されます。

CMYK修正値は各ページセット用に、デジタルマスターイメージがスキャン画像と比較されることにより計算されます。修正を実行するには少なくとも18ページが必要です。

色診断には以下の特性を有する印刷ジョブが最適です：

- すべてのトーン階調（ハイライト、ミッドトーン、シャドウ）
- スキャン両方向に広い配分
- 多数の測定点

画質モニター

画質モニター (IQM) とは一種の欠陥画像監視です。これで処理済みデータとスキャンされた印刷イメージの比較によって、印刷された媒体上の線やムラを識別します。

テストパターンはテスト精度の維持のために必要です。

「印刷結果番号を出力」機能で、すでに見つかっているページがさらに楽に見つかるようになります。

画像パターンが評価に影響します：

- バックグラウンド付きでコントラストが高い細線/テキストがエラーと誤まって識別される可能性があります
- 解像度が非常に低い画像はエラーとして識別される場合があります。
- 刻印された用紙は、用紙表面としてではなく画像パターンとして扱われる場合はエラーとして識別される場合があります。

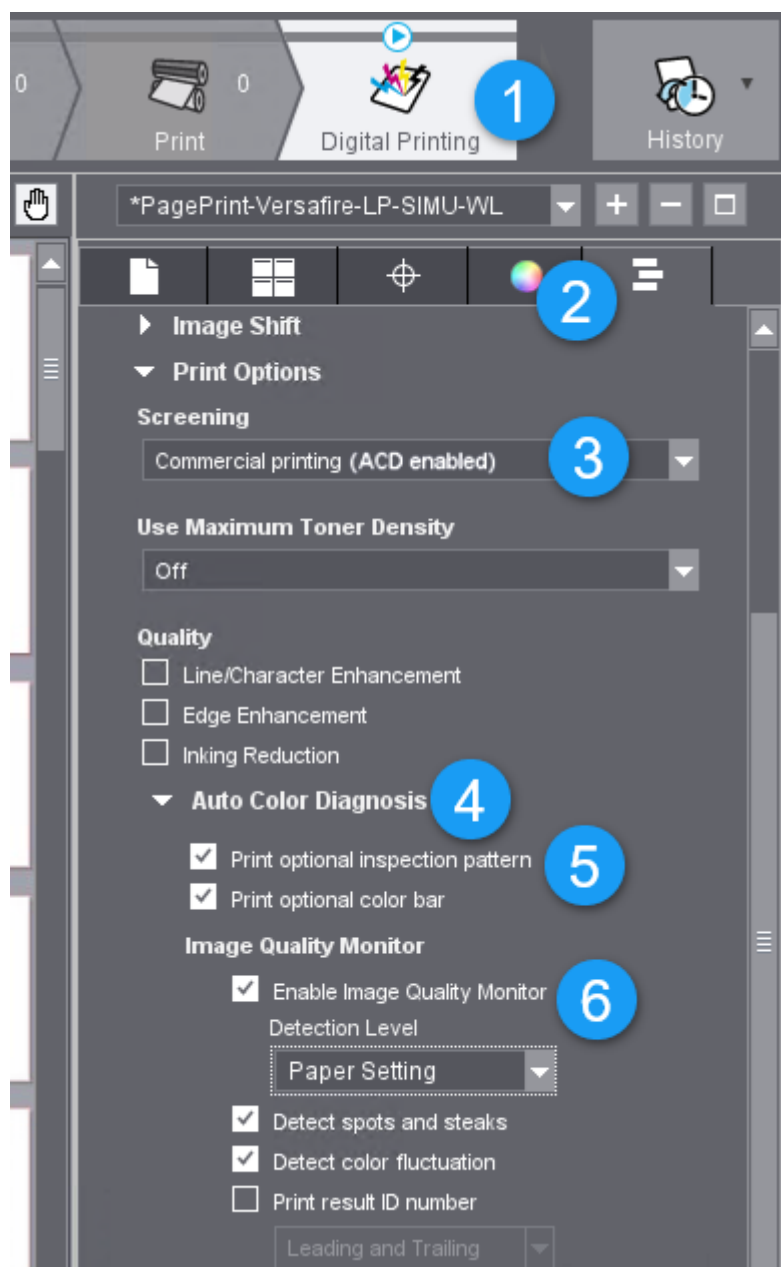
エラー誤認時の対策：

- 識別レベルを下げる
- センサーを掃除する
- 誤認エラーがあってはならない範囲を定義する

ACDPrinect Cockpitでジョブ別に調整する

ACDが用紙用に有効になっていれば、この用紙にVersafire LPで印刷される場合は、常に自動色診断が使用されます。基本機能は印刷ジョブごとに個別の有効化や無効化はできません。

但し、例えば現在のジョブでは「Image Quality Control」無しで印刷したいような場合、基本機能は各印刷ジョブ用の設定の一部を「デジタル印刷」ページ (1) で調整可能です。



前提条件：設定オプションが表示されるのは、印刷機と接続されており、ACDが有効にされている用紙が挿入され選択されている場合に限られます。

また、ACDの可用性も選択されたラスターセットに依存します：リストボックスにはどのラスターセットに対してACDが有効になっているか（3）が表示されます。他のラスターセットを選択した場合、ACD用の設定は無効になります。情報アイコン上のツールチップには、選択されたスクリーニングがACDに対応していないことが示されます。

1. 「プレスおよびポストプレス設定」タブ（2）で「Auto Color Diagnosis」（4）用の設定を開いてください。デフォルトでは、ACDが印刷機の操作ターミナルで指定した通りに設定されています。
2. ここで次の設定を変更することができます：
 - 「診断マークを出力」（5）：特定の条件下では、用紙の左右エッジでフィード方向と平行に向いている「診断マーク」という名前のカラーフィールドグループを印刷することができます。診断マークは、印刷されたページに含まれるインキの数が足りない場合に自動色診断をサポートします。出力時には、診断マークが本来の印刷画像範囲外にあり、後で裁断の際に伐採できることにご注意ください。
 - 「カラーバーを出力する」：よりよい色診断のために追加のカラーバーを印刷します。
 - 「画質モニターをオンにする」（6）：画質モニターは印刷結果に白点や暗いシミあるいは横切る線や縦の線などの損傷がないかを検査します。



前提条件：診断マーキングの出力は作動状態になっています。

画質モニターが作動中の場合：

- 「識別レベル」：印刷機の操作ターミナルでは、例えば特定の印刷ジョブにおいては感度を下げて作業するために、ユーザー定義の識別レベルを複数定義しておくことができます。Prinect Cockpitではこの場合、各印刷ジョブの際にこれらの識別レベルの間でデフォルトの「用紙設定」とは異なるレベルを選択することができます。
- 「ムラと線の識別」：一つの画像内で、画質問題がモノトーン面または黒または他の色のバックグラウンドに白いシミとしてまた長いシミまたは白い面として識別されます。
- 「色ムラの識別」：最後に印刷されたコピーと先頭のコピー/事前定義済みカラー標準の間で規定値を超える色違い。
注記：用紙に色測定可能な範囲がない場合、色ムラは識別されません。
- 「印刷結果番号を出力」：印刷された素材に識別番号を追加すべきかどうかを指定してください。印刷されたコピーから印刷エラーのあるページを検索するために、識別番号は追加したほうがよいです。

Color Center Versafireでの管理

Prinect Color Center Versafireの機能

印刷結果の品質と色堅牢度は異なる要因に依存します。特に、各被印刷物に適する印刷機の設定がそのために重要です。被印刷物とは印刷する素材を意味します。異なる品質の用紙であったり、プラスチックフォイルなどの他の素材であることもあります。

本番印刷の前に、設定のキャリブレーションを実行し、正確なカラー再現を確実にしてください。この被印刷物のクオリファイ作成ではPrinect Color Centerがサポートします。この被印刷物のクオリファイはColor Center VersafireにおけるACDの開始のためにも前提条件です。



注記：Color Center Versafireは様々なブラウザで開始できるブラウザベースのアプリケーションです。Internet Explorerには対応していません。

被印刷物のクオリファイの構成要素

- ・ 各用紙用の (カラー) キャリブレーションを作成する
- ・ 場合によってはキャリブレーションを類似用紙に適用する
- ・ Cockpitのデジタル印刷で印刷ジョブに割り付け可能なICCプロファイルを作成します

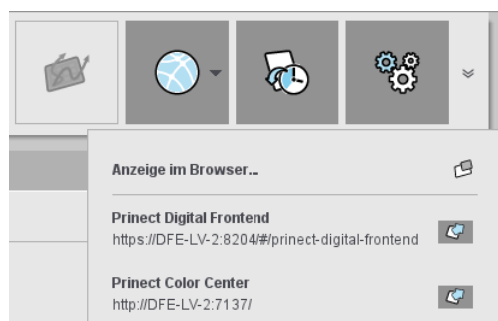
詳しい情報はColor Center Versafireのオンラインヘルプをご覧ください。

データ管理

印刷機にセットした用紙に関する情報は「["Color Center Versafireでの管理", ページ 28](#)」で確認でき、生成されたキャリブレーション/プロファイリングの概要は「キャリブレーション管理」または「プロファイル管理」で確認できます。

Cockpitからの呼び出し

Color Center VersafireはPrinect Cockpitからでも呼び出すことができます：デジタル印刷ターミナルで地球アイコンをクリックし、メニューで「Prinect Color Center」の後ろにあるアイコンをクリックします。このための前提条件は、少なくとも「Press Operator」と「Digital User」のユーザー権限でログオンしてあることです。



Color Center Versafire内の用紙リスト

Color Center Versafireでは用紙をセットしないことができ、あるいは用紙プロパティの編集が可能です。用紙の定義は印刷機で行います。「用紙管理」には印刷機にセットされているすべての用紙の概要が表示されるのみです。

Color Center Versafire-PCと印刷機は定期的に自動同期されるため、印刷機に新たにセットされた用紙または変更された用紙プロパティも直ちにColor Center Versafireに表示されます。

各用紙登録の右横の三点メニューで、以下の機能を利用できます：



ダウンロード：ここでは選択された用紙のすべてのデータがzipファイルにエクスポートされます。



ある用紙についてのすべての詳細情報を見るには、本のアイコンをクリックします。



用紙設定のコピー（下記参照）

Auto Color Diagnosis (ACD)がインストールされている場合、三点メニューの横に各用紙のACD状態も表示されます。

用紙管理でのACDの表示

用紙管理では、三点メニューの横に各用紙のACD状態が表示されます：

DFE-LP-S-1						
Tray overview	Paper management	Calibration management	Screenset management	Profile management		
Senator uncoated 250	256-300	Plain_175Dot	Plain_175Dot			
A3 Navigator SEF	80-105	Plain_175Dot	Plain_175Dot			
CC 80g	63-80	Plain_175Dot	Plain_175Dot			
SRA3 PW3	80-105	Plain_175Dot	Plain_175Dot			
A4 LEF Fusing Nip 3	63-80	Plain_175Dot	Plain_175Dot			
Novatech Banner	105-163	Plain_175Dot	Plain_175Dot			
80g plain	80-105	Plain_175Dot	Plain_175Dot			

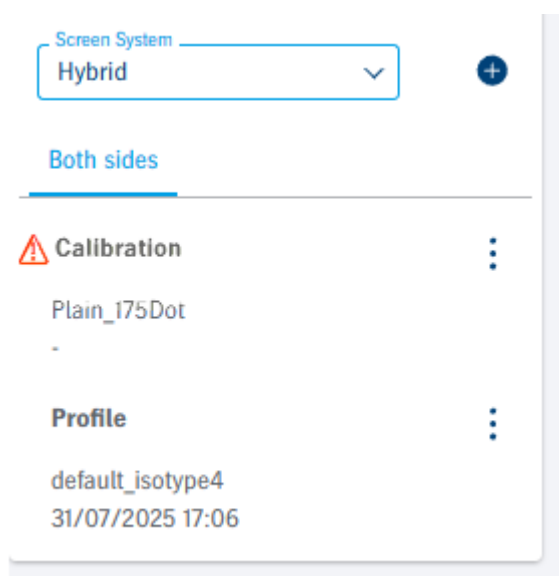
ソフトウェアコンポーネントに関する詳細情報

三点メニューをクリックすると、この被印刷物のすべてのフォーマットが各ACD状態と並んで表示される詳細を呼び出すことができます。

-  ACDが完全に有効（即ち、この被印刷物のどのフォーマットに対しても）
-  ACDがこの被印刷物のフォーマットの一部について有効で、残りのフォーマットについては有効にすることができます
-  ACDはこの被印刷物用にColor Center Versafireによって開始されましたが、フォーマットが要件に対応していないため（用紙フォーマットが小さすぎるなど）、印刷管理用には使用できません。
-  ACDは被印刷物のフォーマットの一部について有効であり、残りのフォーマットについては有効にはできません
-  この用紙用のACDが実行されていないか使用不可です

トレー概要におけるACDステータス

用紙についてキャリブレーションがまだ実行されていないラスターセットが選択された場合、「キャリブレーション」項目の横に警告アイコンが表示されます。その被印刷物についてはこのラスターセットではACDを使用することはできません（ACD機能が非表示）。



ステータス 説明

ソフトウェアコンポーネントに関する詳細情報

無効	ACDはこの被印刷物については使用できません（例えば、黒い用紙、小さすぎるフォーマットなど、 ACDのための前提 を参照）
有効	ACDは基本的にこのタイプの被印刷物については使用することができますが、まだ実行されておらず、このため有効ではありません。
アクティブ	ACDは実行済みで、Cockpitで利用可能です。 注記：Versafire LPにはこのステータスが「Valid」として表示されます。

ソフトウェアコンポーネントに関する詳細情報

- 操作ターミナルでの用紙概要 [11](#)
- 挿入用紙 [22](#)
- 対応用紙 [7](#)
- 概要 [5](#), [7](#)
- 管理
 - 用紙 [29](#)
- 画質モニター
 - の設定 [22](#)
 - をオンにする [27](#)
- 回復 [22](#)
- 機能態様 [5](#)
- 検出された偏差の許容値 [21](#)
- 利用可能な用紙 [29](#)
- 両面 (Duplex) 印刷での見当精度 [22](#)
- 前提 [7](#)
- 欠陥検出時の動作 [22](#)
- 欠陥識別時の印刷プロセス [22](#)
- 色偏差
 - 許容 [21](#)
- 色偏差のしきい値 [23](#)
- 色ムラ識別 [23](#)
- 色ムラの識別 [27](#)
- 設定 [19](#)
- 識別レベル [23](#), [27](#)
- 許容色偏差 [21](#)
- 印刷結果番号を出力 [27](#)
- 印刷中断 [21](#), [22](#), [23](#)
- 印刷イメージ内のエラー
 - 欠陥の表示 [14](#)
- 印刷ジョブの調整 [12](#)
- 用紙管理 [29](#)
 - ACDの表示 [29](#)
- 用紙管理でのACDの表示 [29](#)
- 自動カラー診断の設定 [21](#)

- A ACD Result [14](#)
 - ACD Unit Settings (単位設定) [21](#)
 - ACD Usage Settings (使用設定) [20](#)
 - ACD結果 [14](#)
 - ACD用のテストページを印刷する [8](#)
 - ACDの設定 [11](#)
 - ACDのコンポーネント [5](#)
 - ACDを停止する [20](#)
 - ACDを有効にする [8](#)

- C Color Center Versafire [6](#), [8](#), [28](#)

- P Prinect Cockpit [6](#), [12](#), [26](#)

- Z カラーバーを出力する [27](#)

- ジョブ別調整 [26](#)
- ソフトウェアコンポーネント [6](#)
- ソフトウェアコンポーネントの連携 [6](#)
- タブ精度 [22](#)
- タブでのギャップ識別 [22](#)
- プレスおよびポストプレス設定 [12](#), [27](#)
- ムラと線の識別 [27](#)

Heidelberger Druckmaschinen AG

Kurfuersten-Anlage 52 - 60

69115 Heidelberg

Germany

Phone +49 6221 92-00

Telefax +49 6221 92-6999

heidelberg.com

Copyright © 2026 Heidelberger Druckmaschinen AG.

No part of this book may be reproduced without prior written permission.

Wichtiger Hinweis:

Unsere Produkte werden ständig verbessert und weiterentwickelt. Daher behalten wir uns technische und sonstige Änderungen ausdrücklich vor. Heidelberger Druckmaschinen AG übernimmt keine Gewähr für die Richtigkeit der in diesem Handbuch enthaltenen Angaben, soweit es sich um Beschreibungen oder Angaben von Fremdprodukten handelt. Die hier beschriebenen Leistungs- und Geschwindigkeitsangaben sowie sonstige technische Daten und Angaben über Einsatzmöglichkeiten unserer Produkte sind keine vertraglich zugesicherten Eigenschaften im Rechtssinne. Bei Problemen setzen Sie sich bitte mit der für Sie zuständigen Vertretung in Verbindung.

5055.0.14

Version CR

Impressum

Fonts: Heidelberg Antiqua MI, Heidelberg Gothic MI

Marken

Heidelberg, das Heidelberg Logo, Prinect, SupraSetter und Speedmaster sind eingetragene Marken der Firma Heidelberger Druckmaschinen AG in Deutschland und anderen Ländern.

Adobe, PostScript und Acrobat sind eingetragene Marken der Firma Adobe Systems Inc.

PANTONE und Hexachrome sind eingetragene Marken der Firma Pantone Inc.

Weitere hier verwendete Kennzeichnungen sind Marken ihrer jeweiligen Eigentümer.

Technische und sonstige Änderungen vorbehalten.